

継続事業評価シート

評価確定日 令和元年 6月20日

平成30年度(2年目)

Table with 10 columns: 事業コード, 15, 事業名, 組織体制のあり方検討委員会(仮称)の設置, 戦略コード, 4, 戦略名, 機動的・効率的な商工会, 商工会名, 湖東3町商工会, 担当者名, 米谷 淳, 総轄者名, 菊地 功, 施策コード, 6, 施策名, 事務所統廃合を含む組織体制のあり方検討

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

高齢化率の上昇、出生率の低下、商工業者数の減少、購買流出などによるマーケットの縮小といった環境変化への対応を図るため、会員や地域小規模事業者のニーズに沿った事業者第一の個社支援の実現に向け、分散している職員の知識やノウハウを集結し、より良い組織体制の構築を目指す。

2. 事業のねらい

会員減少による収入減などに加え、3事務所の老朽化により、財政的にも厳しい状況に置かれることが予想されることや、高度化する会員のニーズへの対応として分散する職員の知識やノウハウを一ヶ所に集中しワンストップ支援、チーム支援といった体制の整備による成果の創出と、全体最適化を図り効率的な組織運営を実現する。

Table with 10 columns: 3. これまでの評価結果, 過年度, H29, A, H30, H31, H32

事務所統廃合を含む組織体制のあり方検討については、総務委員会で4回ほど検討を重ね、五城目事務所の町からの譲渡提案や、新八郎湯庁舎への八郎湯事務所への入居問題について検討してきたが、手探りの状況であり、似たような課題を抱える商工会の動向を参考にしながら統合に向けた課題を解決しながら進めていく必要がある。アクションプランによる5年後までには統廃合の結論をださなければならないことを皆理解している。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

今年度は役員改選でもあり、各委員会の見直しも図られる必要性を強く認識する若い世代も取り込み、総務委員会の構成を一新させた。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

Table with 3 columns: 事業内容, 実績, 達成度. Content includes details of the meeting and evaluation results.

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

Table with 17 columns: 項目, 検討委員会の設置・開催, 年度, H29, H30, H31, H32, H33, 項目, 年度, H29, H30, H31, H32, H33, 項目, 年度, H29, H30, H31, H32, H33. Includes a progress bar for the evaluation index.

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

Table with 2 columns: 【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

〈評価の理由〉

3回の会議を経て、委員会の中では、事務所統廃合の必要性を理解しコンセンサスが図られた。

Table with 2 columns: 【有効性の観点】事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合) a

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

統合先の選定までには至っていないが、総務委員会への付託事項として機能している。

Table with 2 columns: 【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

組織体制のあり方検討は、支所(事務所)所有による経費の削減、経営資源(人材)の集中による業務効率化、(時間)に繋がることであり、結果は出ていないが、財政基盤の強化を図る為、コスト削減に取り組んでいる。

Table with 2 columns: 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

事務所統廃合を含む組織体制のあり方検討については、新体制のもと、総務委員会で3回ほど検討を重ね、五城目事務所の町からの譲渡提案については進展なく、新八郎湯庁舎への八郎湯事務所への入居問題については結論がず時間切れとなったが、統廃合についての必要性は十分理解を示している。

3. 課題

3役による統廃合についての考えが示されていない状況もあり、検討委員会(総務委員会)においても、統廃合の必要性を認識しつつも、最終的には議論が煮詰まらず終了している。

4. 今後の対応方針(改善点)

3役の意思を表明してもらう必要と、監事からの指摘を踏まえ、総務委員会での検討も必要であるが、具体的に踏み込んだ検討も必要であることから、将来を担う、若い世代も入れながら、具体的な方向性について着手していく必要がある。